

令和 2 年はオリンピックイヤー

令和最初の年が明けました。今年は東京五輪・パラリンピックが開かれます。犬山市も、城下町（本町交差点～犬山城）で聖火リレー（4月6日）が予定されており、全国で開催機運が盛り上がっています。



【答弁】「あんしん電話」は、町会長及び登録を希望した土砂災害警戒区域に住んでいる方や視覚障害者の方を対象として、現在の登録者数は 506 人となっています。課題としては、流す音声について 60 秒という時間制限があるため、例えば多くの避難所を開設した場合など、伝えたい情報が増えていくと制限内に収まらなくなることがあげられます。

（答弁に対するコメント）

※ひょっとしたら、あんしんメールの登録者数は、限界に近づいているのかもしれない。また、自動架電システムは、運用したことがないとのことで、今後、60 秒の時間制約の他にも、課題が見えてくと思う。しっかり取り組んで頂きたいが、以上 2 つの質問と回答を踏まえたくうえで、臨時災害放送局の導入を提案したい。

【質問】 臨時災害放送局は、災害が発生した場合に、地方公共団体が開設できる臨時かつ一時的の目的のための F M 放送局で、口頭で開設可能、出力は最大 100W (ワット) 程度までとなっている。また、被害発生前でも、警報が発令された場合や住民の避難を要する場合は限定的に開設でき、放送局を愛知北 F M からの移行型とすることによって、市民向け情報伝達手段として活用できる可能性があると考え。導入の考えについての見解を求める。

【答弁】 臨時災害放送局の復旧・復興期における有用性は、被災地での活用事例から認識しています。東海総合通信局に確認したところ、ラジオ以外に

（裏面へ続く）

~~~~~  
 令和元年 12 月定例会が 11 月 29 日から 12 月 20 日まで開催され、26 議案すべてが原案どおり可決されました。

## 12 月定例会 私の一般質問・答弁の要旨

### 防災情報の伝達手段について

【質問】 現在、犬山市の防災情報は、主に「犬山市安心メール」によって、配信されている。約 2 年前のデータでは、登録者数 約 1 万 4, 500 人ということだが、現在の状況はどうなっているのか。

【答弁】 10 月末現在で 16, 663 人の方に登録いただいている。今後も災害時等における市民への有効な伝達手段の柱として登録者数の増加に努めます。

【質問】 自動架電システムは、あらかじめ登録された方に対し、市の避難勧告などの情報を固定電話に自動で架けるもので、昨年の 6 月から導入されているが、このシステムの登録者、人数などの状況と課題について、お聞きする。

## 豆知識

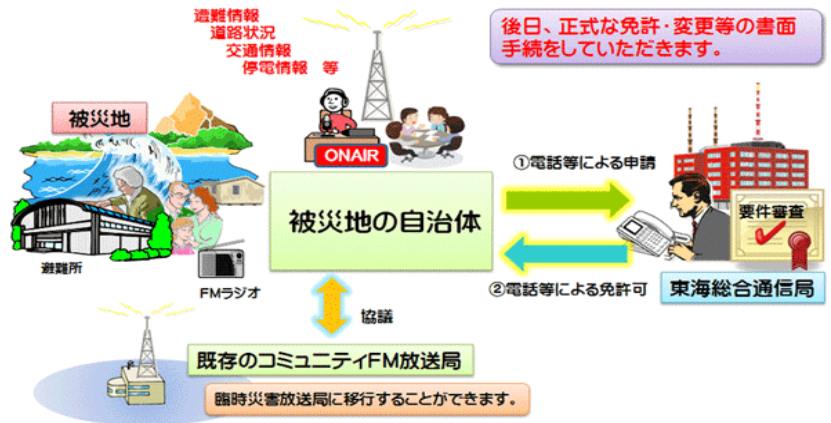
### 犬山市空き地の雑草等の除去に関する条例

空き地に雑草等が繁茂し、周辺住民から除去して欲しいという苦情が多く寄せられます。これまで指導を行う根拠法令が無かったため、土地所有者に苦情がある旨を通知することに留まっていたましたが、令和 2 年 4 月 1 日からは、土地所有者の情報取得や対象地への立ち入り調査が可能となり、条例を根拠とした行政指導ができるようになります。ただし、建物が隣接していない土地や現に人が使用している土地などについては対象外となります。市担当窓口；環境課（0568-44-0344 又は 0345）

12 月議会で、このような条例も制定されました。

周知方法がない場合に認められ、事前の開局は難しいとのことですが、更に協議します。また、現行の愛知北FMとの災害時の協定書に開設の協力に関する内容追加や近隣市町との事前調整、市民への周知など、復旧復興期の開設に備え準備を進めます。

## 臨時災害FM放送の免許



## いいね！犬山総合戦略について

【質問】 平成27年度に策定された地方創生総合戦略は、本年度計画期間を終えることから、改訂を行うことが、市長の施政方針でも触れている。そこで、現時点における第2期総合戦略策定についての進捗状況等についてお尋ねする。

【答弁】 改訂後の総合戦略は、現在のものを最大限生かしながら、国の指針、その後の社会情勢を反映させた内容とします。また、1月に開催予定の審議会で内容等について最終的な審議をしていただき、パブリックコメントを経て年度末に改訂を完了したいと考えています。

【質問】 地方公共団体の取り組みについては、地方創生推進交付金、地方創生拠点整備交付金といった支援メニューが用意されている。この交付金は、政策間連携や官民連携など、高いハードルがあり、交付金活用にあたって、後ろ向きの市町村もあると聞いている。そこで、当市のこれまでの活用状況の総括と戦略第2期計画を推進するうえでの、当局の考え方等についてお尋ねする。

【答弁】 犬山市では、地方創生推進交付金事業として5事業、地方創生拠点整備金事業として2事業が採択されています。平成30年度までの交付済額は約6,600万円、今年度は約1億600万円が交付決定されており、合計すると、約1億7,000万円の交付を受けることになります。採択にあたっては、知恵と工夫により、個別では補助が受けられない既存事業を再構築しながら、地域再生計画という一つのパッケージとして申請し、少しでも市の財政負担が軽くなるよう意識しています。改訂後の総合戦略を推進するにあたって、昨今の犬山市の財政状況に鑑み、交付金の活用は不可欠だと考えています。

(答弁に対するコメント)

※補助金を得るために事業を実施しているというご意見も聞かれますが、私は決してそうではないと考えています。補助金の獲得も都市間競争の一つと考えるので、今後とも情報のアンテナを高くし、しっかりと取り組んで頂くことを期待する。

## 市職員の執務・作業服について

【質問】 クールビズ期間中に、「わん丸デザインシャツ」を着用してはどうか。こうした取り組みは、職場の雰囲気がいかにやわらぎ、市民にとって親しみやすい環境となると思われる。統一デザインのシャツを作り、シティープロモーションの一環として、希望する職員に購入していただくことを提案する。



【答弁】 全職員に着用を強制することはできませんが、シティープロモーションの面からも有効と考えますので、検討してまいります。

【質問】 最近の夏場の暑さは、少し異常なところがある。対策として、背中部分に送風ファンが装着された空調服が開発されている。そこで、特に屋外での作業やイベント時の駐車場整理等、炎天下で長時間の業務を行う部署を対象に試験的に空調服を導入し、貸与してはどうか。

【答弁】 現状として、炎天下で長時間作業するような場面は少ないが、暑さ対策は職員の健康管理や業務効率の面からも必要と考えますので、職員の声を聞きながら、空調服も含めた対応策を研究していきます。

<以上>